

令和元年度

八幡商業高等学校 学校評価

本年度の重点目標

・たくましい産業人の育成を目指し、「新しい商業教育の構築」「部活動の活性化」「国際理解教育の推進」を本校教育活動の3本の柱として、文部科学省スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール指定校としての新しい教育実践に努め、一人ひとりをいかす自己実現を支援する。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	学校経営方針のもと、全職員が協働体制をとって学校経営を行っている。	A	A	A
	地域や生徒・保護者の願いを踏まえ、特色ある教育活動を積極的に推進している。	A	A	A
2 学習指導	学習の基礎基本の確実な定着のために、個に応じたきめ細かな指導を行っている。	A	A	A
	授業時数を確保し、わかる授業・深く考えさせる授業に向けて授業改善や計画的な授業の展開を行っている。	B	A	B
3 生徒指導	礼儀正しい言葉遣いと挨拶を身につけさせている。	A	A	A
	頭髪・服装の乱れを正し、基本的生活習慣の確立を図っている。	A	A	A
	いじめの未然防止と早期発見に努め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	A	A	A
4 進路指導	生徒の進路に応じて、より高度な学力を身につけさせるとともに、資格を取得させている。	A	A	A
	生徒の進路希望実現のために、1年次より系統的な進路指導・ガイダンスを行っている。	A	A	A
	進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。	A	B	B
5 特別活動等	部活動により、学校活性化を図っている。	A	A	A
	生徒会活動により、生徒が自主的に計画や運営ができるよう指導をしている。	A	A	A
6 学校図書館	図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている。	A	A	B
7 保健・安全指導	一人ひとりが健康で明るく豊かな生活が送れるよう指導・援助を行っている。	A	A	A
	課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている。	A	A	B
8 人権教育	全ての教育活動において人権尊重の視点に立った教育を推進している。	A	A	A
	人権教育を推進するために、1年を通じて指導の計画を立て、人権意識の高揚を図っている。	A	A	A
9 環境教育	毎日の清掃を徹底させ、学校環境を清潔に維持している。	A	A	A
	ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。	B	B	A
10 事務・管理	施設・設備面での安全管理を充分に行っている。	B	B	B
11 その他 学校の取組み	SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。	A	A	B
	長期・短期留学制度の充実等を図り、国際理解教育を推進している。	A	A	A
	課題研究を通して自ら考え、発信できる人材・起業家養成を行っている。	A	A	A

(注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表

10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価)A B C Dの4段階評価で示す。

3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価)A B C Dの4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、

あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。